

【報告】AAPSO第11回大会について

2018年12月14日 田中 靖宏（日本AALA代表理事）
片岡 満（北海道AALA事務局長）

アジア・アフリカ人民連帯機構（AAPSO）第11回大会が11月14日から16日までモロッコの首都ラバトで開かれ、日本AALAから田中靖宏代表理事と片岡満北海道AALA事務局長の2人が参加した。大会はモロッコ連帯委員会が政府の後援をえて各国代表を招待するかたちで開かれた。参加は、エジプト、バングラデシュ、イラク、日本、レバノン、モロッコ、ネパール、パキスタン、パレスチナ、ロシア、スリランカ、チュニジア、英国、ベトナム、の14カ国の人民連帯組織で、各国から2～3人の代表が参加していた。

大会組織委員会は招集にあたって、大会のテーマとして①パレスチナ人民支援②主権国家の分解をねらった動きにどう対抗するか③貿易戦争や核軍拡の動きにどう対応するか、の3つを提起。事前の意見提出を求めた。これにたいし、日本AALAは事前に意見を提出した（別項参照）。

★11月14日（1日目）

<9時30分～ 登録>

ホテル（HOTEL DAWLIZ）のロビーで参加者登録。参加証入りのネームホルダー、パスポートと引き換えに同時通訳のレシーバーを受け取り、隣接する会議場へ。

<10時～ 開会総会>

モロッコ連帯委員会のアルタラシ委員長の開会宣言に続いて、AAPSOのハディディ議長が開会あいさつをおこなった。その要点は次の通り。

世界には政治的な緊張や経済混乱など多くの問題、危機に直面しているが、その根底には、一極支配ではなく多極の新しい世界秩序にむかう動きを米国がその変化を阻止しようと抵抗していることにある。政治的な緊張が地球的な問題の解決を遅らせ、テロとのたたかいに否定的な影響をあたえている。政府や機関がテロ組織を支援して利用し、AA地域で国民国家の枠組みを崩壊させようとしている。シリアやリビア、ソマリアやイラクでおこったことだ。トランプ政権のエルサレムへの大使館移転やUNRWAの資金停止の措置の狙いは、「世紀の取引」計画にもとづいており、それはパレスチナの大義を完全に葬り去ることにある。わらわれはこれに断固として反対し、エルサレムを首都とした国家建設をふくむパレスチナ人民の権利の回復を再確認しなければならない。経済面では、トランプ政権お一国主義のもとでの一方的な措置により混乱が広がっている。中国やイランにたいする制裁が発動され経済戦争をひきおこし、AA人民に損失をあたえ、リーマンショック後の立ち直りの過程に被害を与えている。それに大国による軍拡が輪をかけている。これは米国の新しい核戦略によってはじめられたもので、ロシア、中国、イランを主敵とみなし、小型の戦術核兵器の生産が含まれている。新たな軍拡競争は小型の戦術核兵器の使用を排

除せず、これが米国の同盟国をも驚かせている。こうした政治的緊張や経済混乱、軍拡によって持続的は経済発展計画の達成が危ぶまれている。これとたたかうためには次のようなステップが必要だ。第一に、冷戦時代に採用した非同盟政策の経験にかんがみて、AA人民連帯機構の草の根レベルで活動を強化しなければならない。第二に、まもなく米国にかわって中国とインドが経済大国になる変化の状況にてらして、各国にたいし一国や二国だけでなく、すべての新興諸国の間に協力の橋をかけるようながさなければならない。第三に、AA諸国に相互利益をひきだすよう経済協力を促す。第4に、各国にAA諸国に技術発展の成果を分かち合い、米欧による発展の妨害をはねのけて発展させるように促す。第5に、貿易戦争の悪魔に対抗して、自由な世界貿易を守るビジョンを追求しなければならない。各国の協力が発展すれば、大国に依存しなくても持続的な経済発展計画の達成は可能だ。棄権な軍拡と貿易戦争、経済危機とテロに反対する統一した立場を確立し、連帯を強化して、国民国家解体の企てとたたかい、経済発展を可能にするため、大会での積極的な討論を期待する。

◎続いてヌリ書記長が報告を始めた。

前大会以来2年間、世界はトランプ政権の登場で未曾有の混乱が広がった。イランの核合意、ロシアとのミサイル制限条約からの撤退などで核軍拡の再来が懸念される。AI技術の発展で、軍拡は過去にない危険と破滅的影響をもたらすだろう。米中関係、米ロ関係も危機的だ。米国のやり方は優勢を利用して敵を作り、脅しをかけて取引委持ち込む危険なものだ。これと対抗するには他の大国と新興諸国、非づ名諸国の運動が不可欠だ。米国とイスラエルはパレスチナの大義を根こそぎにしようとしている。800万のパレスチナ難民が苦しんでいる。シリアの危機が複雑化している。テロが広がり、国家を分断する米帝国主義の策動が強まっている。———・

来賓のモロッコ首相の退席時間が迫っており、司会が時間の都合により、ヌリ報告を途中で制止、来賓の挨拶を促した。

◎モロッコのサアディ・ディン・エル・オスマニ首相の来賓挨拶の要点

政府を代表して、AAPSOのみなさんが大義にたって活動していることに敬意を表す。AAの連帯をこわすことはできない。貧困の克服、持続的な発展のために、覇権主義でなく、相互の尊重にもとづく団結と連帯が大事だ。世界の軍事化に反対する。パレスチナの自決権と独立を支持し、問題の中心におく。モロッコはみなさんと協力してパレスチナの大義のため支援を続ける。

◎パレスチナ自治政府のジアド・アブ・アムル副首相の来賓挨拶

モロコ政府の支援に感謝する。モロッコはバランスの取れた立場でマグレブ諸国の団結に貢献している。アルジェリアとの対話と協力関係を促進してほしい。などなど。

< 11時30分～ コーヒーブレイク >

<12時20分～ 第1セッション>

テーマは「国際の平和と安全への脅威（国際テロ、シリア紛争、軍拡）。パネルの司会はヌリ書記長、発言はロシア、インド（不在）、エジプト、日本の順だった。各代表の発言の抜粋は次の通り。

◎ロシアのボグラノ大使

この間ロシアの連帯委員会は **85** の自治地域のうち **50** 近くの地域で組織を再建した。国際の脅威に対抗するには、分断支配にたいするたたかいが大事だ。そのためには運動の側の分析力が欠かせない。アラブ連盟やほかの諸機構に分断がもちこまれている。イランとアラブ諸国との間のように。策動は米国からやってくるが、これに対する対抗は難しい。対抗するためには隣人のことを考える必要がある。ロシアはシリア問題の国際会議を開催して、さまざまな市民組織の間の対話を促した。反ロシア宣伝が激しいが、解決のための妥協を促している。また西側諸国の労働者政党、たとえばドイツ社民党との関係を強めている。軍拡は脅威だ。米国が I N F 条約などこれまでの軍縮条約を一方向的に破棄しているが、ロシアの努力は変わらない。**1980** 年代に欧州中距離ミサイルの配備に反対する抗議運動があった。大衆が抵抗して軍縮を勝ちとったことはよく知られている。

◎エジプトのジャーナリスト、ナビル・ザキ氏

（要約）トランプ政権の軍拡をさまざまな角度から非難。ロシアが標的になっていると擁護。アイクの警告を例にあげて米国の軍産複合体の動きを指摘。最近の N A T O 大軍事演習を **31** カ国参加、**151** 艦船、**5** 万人参加で、ロシアの国境での演習だ。チョムスキーやチャーマーズ・ジョンソンの発言を引用して米帝国主義が国際平和の最大の脅威になっていると強調。米国の太平洋パワーを維持するため中国への「攻撃」をエスカレートさせると非難した。

◎シリア連帯員会からのメッセージが読み上げられた。

◎日本の田中靖宏 A A L A 代表理事

田中代表理事は最初に各国からの沖縄の闘いへの支援に感謝するとともに、最近の知事選での勝利を報告した。（これにたいし会場から拍手があった）。情勢について田中は緊張激化や軍拡の脅威の一方で平和を求める人民の運動が発展していることに留意すべきだと指摘し、核兵器禁止条約の採択の意義を強調。大会として非同盟諸国に批准を促すことを提案した。また朝鮮半島の平和プロセスの意義を強調し、朝鮮半島の非核化・平和地帯化を約束した3文書への支持を大会として表明することを提案した（発言の内容は別項参照）。

◎このあとフロアからの発言、質疑応答があった。田中の提案にたいし、核兵器禁止条約を採択した国連会議の役割を重視することは重要だと発言があった。これにたいしロシアのボグラノ大使は、核兵器禁止は最後の目標として支持するが現実もみなければならない。たとえば中東非核地帯条約はイスラエルの反対でできない。そういう問題にどう対処するのかを考えなければならないと発言した。これにたいしフロアから、イエメンの事態は深刻だ。ロシアはもっと中東への関与を強めるべきではないかとの質問があった。ロシア大

使は、いまシリアの問題でロシアは手一杯だ。**58000**人も支援に派遣している。イエメンにはそれでも医療支援をしていると回答した。

◎パキスタン代表がフロアからインドによるカシミール支配の不当を非難、最終文書にいれろと要求。これにたいし司会のヌリ書記長が「両方が妥協する適切な言葉を探そう」と回答した。シリアへの外部からの干渉をどういう表現で非難するか、また共通の立場をどうするかについて議論があった。

◎バングラデシュの代表がロヒンギャ問題を取りあげ、負担が大変だと訴えるとともに、「インドのヒンデゥ・ファシスト政権」によって北部インドから**400**万人もの難民がバングラデシュに逃れていると批判。米国とインドの核協力の危険性を指摘した。そしていまこそバンドン精神の実現が大事だと強調した。

◎ベトナムの代表が、ベトナム戦争の時代をふりかえり、米国の侵略を打ち破った歴史を強調。それと同様の国際支援をパレスチナ人民の独立の権利のために行おうと訴えた。

<14時30分～ 昼食>

休憩時間に田中代表理事は、ヌリ書記長と話をした。ヌリ書記長は田中にたいし、安倍政権の対中政策をどうみているかと質問した。田中は最近の安倍訪中にさまざまな見方があると紹介した。ヌリ書記長は自分は**1964**年以来、4回沖縄にいて、たたかいを知っているといて、正確な年をいって沖縄訪問の説明をした。日本AALLAが沖縄のたたかいと核兵器廃絶の運動を重視していることをよくわかっているといった。

<15時30分～ 第2セッション>

テーマは「パレスチナの大義の風化の企てについて」。司会はパレスチナのジアド副首相、発言はパレスチナ、エジプト、レバノン、チュニジア、ネパールの順。

◎パレスチナ代表（駐モロッコ大使）

パレスチナはここ百年間で一番危険な状態にある。大義が失われようとしている。米国はたくさんの約束をしたのに、トランプが反故にした。この影響は大きく、状況は良くない。アラブ諸国は22か国あるが、19の紛争があり問題多い。この対立が干渉勢力のチャンスになっている。これがアラブで今一番複雑な問題だ。イスラエルは圧力を強化しており、彼らの目標はパレスチナ人を諦めさせ、大義を風化させることだ。そういう策動はあるが、われわれは古くからの領土を守り、共存を追求していく。それが大事だ。パレスチナは2012年に国連のオブザーバー国家と認められた。イスラエルはアメリカの手先となって、大使館のエルサレム移転を強行させた。パレスチナの難民問題が無視されている。何の保証もなく難民が故郷を追い出されている。権利が様々に制限されている。ガザ住民の70%が難民化している中で、抛出の中止やワシントンの代表部が閉鎖だ。これらの問題にどう取り組んでいくか、どうガザを支援していくか、支援に頼っていた人達がどうなるか。残念ながら闘いはうまくいっていない。1967年以降の線でのパレスチナ国家建設の「大義」を忘れさせようとしている。アメリカは仲介者を放棄し、イスラエルと連携し、敵対

する立場となった。しかしどんな動きがあっても、イスラエルとアメリカに対抗しなくてはならない。イスラエルはアラブの国々とも関係を持ち、やりたい放題やっている。アラブ連盟で、難民問題も含め解決に取り組んできた。イランなどの国で合意が出来たが、イスラエルが拒否。アラブ諸国を絶望に追い込み、諦めさせようとしている。しかし、パレスチナは諦めない。それは意志であり、構想であり、目標だ。平和的に闘っていく。146か国がパレスチナの独立に賛成している。私たちには価値あることだ。イスラエルは法律を勝手に作り、二百万人のパレスチナ人は見捨てられ、差別と抑圧が続いている。とにかくアクセスできない、自由に動くこともできない。兵士は人々を殺し、無法に逮捕している。奴隷制以来、こんなことは行われてこなかった。オセロ合意を誰も尊重していない。私たちは国として見直さないといけない。宗教問題でもある。エルサレムの施設が破壊されている。こんなことはなかった。世界中からユダヤ人がやってきてイスラム文化を破壊している。私は駐モロッコ大使だが、多くの国がガザへの戦争で子どもを殺しているのを見て見ぬふりをする中で、モハメド6世（現モロッコ国王）の「大義」を守る立場、権利を守る委員会の活動など国王の支援に感謝している。

◎司会

新しい情報ありがとう。全ての国際社会がこの重要な問題に注意をむけるべきだ。国連決議などを無視するイスラエル当局の試みが非難されなければならない。アメリカの最高指導者が大使館をエルサレムに移設させた。世界から批判を浴びている。私たちは「パレスチナの大義」に立っている。

◎エジプト代表

私たちもパレスチナ人民への支持を確認したい。血なまぐさい抑圧にさらされるパレスチナ人民の支援を、最終文書に入れてもらうよう努力する。パレスチナの大義は基本的なことだ。70年間で私たちはもっとも危険な状況に直面している。**1976**年の線に従って国を作る権利、聖地に関する権利をトランプ政権が大義を破壊しようと脅しをかけている。彼らが共同して進めている策動は2国間共存の解決と矛盾する。立ち向かっていかなければならない。交渉の仲介者としては、アメリカに頼らず中国や欧州に依拠すればよい。ネタニヤフは我々のプロセスを破壊し、全てのパレスチナ人を追い出し、大義を否定している。現実的には解決にほど遠いが、絶望しないことが大事だ。分裂せず、違いを克服して、平和的な抗議で闘おう。再度のインテファダを組織しよう（この前後、スピーチの声が大きくて、通訳の音声聞こえず）。闘いを続ければ、最後は勝つ。欧州で不買運動をやっている。メディアを動員して、イスラエルの人類に対する犯罪を告発しよう。

◎チュニジア代表

連帯委員会を代表して国王に感謝する。ハディディ議長やヌリさんにも感謝する。アラブ世界は今、多くの問題に直面している。アラブの文化、願いを米国が脅迫し、権利を奪い、国際法を無視して大義を殺そうとしている。パレスチナ人の苦しみを無視し、人種差別を高めている。パレスチナ人に対して、投資に対する新しい法律を作った。パレスチナ人の権利を無視し、犯罪者にしたでている。大使館の移転など絶対に許せない。パレスチナの大義は、仲介者の役割を解消した米国によって忘れられようとしている、殺戮がおこな

われ、植民地、奴隷状態が続いている、多くの人はイスラエルがパレスチナを奴隷制の下におくと見ている。アラブ世界が黙って見ていていいのか。交渉は、断固としてパレスチナ人の権利を守るものでなければならない。どんな困難も、土地を奪い去ることはできない。我々の解決策、連帯組織としてめざす目標は国家建設だ。

◎ネパール代表

ネパールの委員会を代表して招待に感謝する。大会は重要なテーマを話し合うことになった。ネパールのオリ首相もこの問題に強い関心をもっている。パレスチナの大義に賛同してきたAAPS Oの活動に全面的な支援を表明する。午前の会議で軍拡について話されたが、世界は一極から多極へ変わっている。大国の軍拡に反対する。ネパールは共和国となり、オリ首相の下で民主的な国づくりを進めている。ネパールはいつも人民の立場で支援している。どこにしようとパレスチナ人は故郷へ戻る権利がある。1947年以来、追放された人たち。カーター大統領の下で平和条約が結ばれたが（1979年）、40年過ぎてもパレスチナ人の権利は回復されない。オスロ合意はできたが、第一次大戦後の国連が無力であったように、実行されない。アラブが断裂していることが、湾岸戦争にも負けることに繋がった。分裂をやめ、団結して米・イスラエルに立ち向かえば、あんな無法はできなくなる。（このあとモロッコ国王への尊敬の辞）。

◎レバノン代表

パレスチナの大義に立つことが大事だ。イスラエルの建国が危険な状況を招いている。アメリカが大使館を移転したことは、感情を無視するだけでなく、挑発だ。パレスチナ人の財産を奪い、追い出そうとしているが、エルサレムはパレスチナの首都だ。パレスチナ人の権利を100%圧殺するものだ。難民が帰ってこない。2国間解決を認めない。難民はパレスチナのアイデンティティを持っているが、「単なる難民」にしようとしている。トランプは財政支援を打ち切り、責任を放棄した。パレスチナ難民の子供の世代を難民と認めようとしな。土地や財産だけでなく、アイデンティティも奪っている。もうパレスチナ人への援助はなくなり、大義を無くし、一般的な難民になる。イスラエルに完全に支配される危険。しかし、パレスチナ人は土地を放棄しないでしょ。立ち上がり、オスロ合意25年のここから現実的な課題にとりくむでしょ。パレスチナ人民の意思に基づき、すべてのアラブ人の団結で、国家建設を支持しよう。

◎イラク代表

モロッコの招待とイニシアチブに感謝する。2017年にチュニジアで会ってパレスチナ支援委員会を作って活動してきた。アメリカが招いた危機は、中東を分断し、本当の問題に立ち向かう動きを妨害している。イスラエルが国家テロを推奨している。オセロ合意を破壊し、分断を持ち込んだ。大使館移転や支援機関の閉鎖。イラクの委員会は、これに反対して闘う決意だ。パレスチナ人には未来を決める権利、土地に戻る権利がある。イスラエルの言う安全保障は嘘だ。パレスチナの大義を犠牲にして、一国主義を押し付けている。パレスチナは第一の問題。さらにシリアやイエメンの問題がある。イラク人民はこの2つの支援をしていく。アラブ世界は共に闘おう。

◎フロアからの発言

トランプは、皆が忘れるのを待ち、パレスチナの権利を失くすことを狙っている。絶望している場合ではない。なぜならイスラエルは、諦めさせ、パレスチナの大義を忘れさせ、ユダヤ人国家を作ろうと、何世紀にも亘るユダヤの望みを果たすことのみ考えている。

11月15日（2日目）

<10時～ 第3セッション>

テーマは「分断、分割の企てに対して国民国家と人民、領土の団結をどう維持するか」

パネルの司会はエジプトのオマール大使

発言は、イラク、モロッコ、エジプト、スリランカ、日本

（田中代表理事が壇上に上がったので筆記なし。この項、以下は田中のメモから）

◎エジプト（オマール大使）

かつて米国のコンドレサ・ライス国務長官がワシントン・ポストに寄稿して「創造的な混乱」で新しい中東をつくると書いた。アラブの春のあと、米国はこの「創造的混乱」を利用して介入した。若者の平和的なデモを利用して外部から介入した。

◎モロッコ代表（国際政治学者）

欧州での国民国家の成立の過程と植民地での国家形成の歴史を文化的、民族的一体性の維持という観点から振り返り、植民地主義の遺制とグローバリゼーションの2重の要因で、国家の一体性の維持が難しくなっていると指摘。国家維持の基本要件を列挙しながら、努力することの重要性を指摘。モロッコも解体の危険（西サハラ問題）に直面していると強調。帝国主義の策動と国内の反対勢力、ウィルソン的な介入主義とたたかう意義を強調した。

◎エジプト代表（ジャーナリスト）

帝国主義による分割と戦後の米政権によるさまざまな介入主義を列挙。国家の解体もその策動の一環であると警戒をよびかけた。

◎日本（田中代表理事）

事前に提出した意見にそって、個別の問題でそれぞれの国で立場の違いがあることを指摘、最終文書では主権と民族自決権の擁護という原則の確認にとどめ、最終文書の問題に言及しないよう提案した。

◎スリランカ代表

自国での分離主義とのたたかいを報告

◎モロッコ代表

外部からの干渉で主権がおびやかされている。アラブは団結すべきだ。それには国内の少数派の扱いが大事。植民地独立付与宣言以来の様々な決議で国家の一体性が確認されている。それを破壊する独立は認められない。モロッコは朝鮮をうけており、主権は交渉の対象にならない。似合わない

◎イラク代表（バグダッド大学長）

植民地からの独立の過程と民主主義から国家概念について答えのない難しい問題に直面している。イラクの経験にてらして、外部からと内部からの両面から策動に直面している。アラブの春以後、テロや宗教によって一体性は揺らいでおり、未来が心配だ。

◎フロアからの発言と討論

＜パレスチナ代表＞ハマス運動は危険な挑戦。もっとも困難な問題だ。

＜エジプト代表＞ムスリム同胞団も同じだ。

＜チュニジア代表＞領土の一体化が重要。

＜レバノン代表＞スラエルの野望に注意を。レバノンの主権が侵されている。

＜チュニジア代表＞西サハラ問題で、モロッコ国王による対話の呼びかけを支持する。マグレブ諸国の団結が大事だ。

＜パレスチナ代表＞分離主義に付け入られるのはグローバリゼーションで各国がアイデンティティを失っているからだ。西側帝国主義とたたかうには文化の維持が大事だ。

＜12時～ コーヒーブレイク＞

＜12時20分～ 第4セッション＞

テーマは「持続可能な経済発展と国際貿易戦争」

パネルの司会は、インド（不在）、イギリス

発言はイギリス、エジプト、ロシア

◎司会 経済戦争についてネパールから発言を

◎ネパール代表（オリ首相からのメッセージを代読）

非同盟運動メンバーの立場から、差別に反対する。国連の決議に基づき平和に貢献する。ネパールは何年も続いた王国を共和制にし、新憲法を採択され、それを執行中だ。平和と持続可能な発展にとりくむため、隣国との友好関係を重視している。発展のための調整が政府の中心任務だ。核兵器が世界を危機に陥れる中で平和を追求している。全ての国家間の紛争は対話で解決をとよびかけている。AAPS Oは平和の動員の力がある。人権の擁護めざして、全ての植民地に反対。独立した自国の人々を支援し、あらゆる形の不正に反対。弱者の立場で活動している。バンドン会議の1955年以来、冷戦に反対し、植民地から解放されたアジア、アフリカの国々と、社会正義をめざして闘っている。環境問題での大国による支配に反対だ。AA諸国は帝国主義の侵略の矛先になってきた。国連の持続可能な発展計画（SDG）に決められた公正、平等をめざし、それに立脚したAAPS Oのダイナミズムを支持する。平和の活動に期待し、第11回大会の成功を祈る。ネパールでは、

2004年、2011年にカトマンズでAAPS O会議を開催した。真剣に活動する民主共和国として今後も貢献する。大会が人々の励ましになるよう期待する。

◎ロシア代表

持続可能な発展を考慮に入れて、今の発展に位置づけることが重要だ。経済制裁や貿易戦争は、新しい経済危機を招く。世界は2008年の危機からまだ回復していない。ここに来る前に、専門家にどのくらいの国が経済制裁を受けているか訊いたら、(調べるのに)二日もかかった。制裁のシステムによって71か国が対象になり、もしくは対応中だ。貿易の規模にかかわらず発動され、見たことのない問題に直面している。真実は、米国が中心的な責任者であることだ。(経済制裁は)1950年から175回も発動され、109が米国によるもの。だからこのような現状になっている。ロシアは二つの方法でこれに対抗している。個別の対抗と団結しての対抗だ。団結しての対抗にはBRICsやASEANとの協力がある。ロシア人民連帯委員会は、こういう立場からアジア、アフリカ諸国と協力している。1950年代から60年代、70年代と、中国との関係を変えてきた。中国のモスクワ大使が招いてくれて話したが、友好、協力を確認した。中国と一緒にアジア、アフリカ諸国と協力してきたが、中東とも国際会議のプログラムを話し合っている。第2の反抗(団結)は効果的だ。貿易戦争が続きコントロールできなければ、スタグフレーションを招く。オイルの価格が上がればいいというものではない。1バレル49~60ドル。OPEC+他の産油国で、ロシアとサウジが大きな役割を果たしている。適正な価格維持が重要だ。持続可能な経済発展は、東アジアとアフリカによる。70年代半ば、76年に初めて新経済秩序が提案された。期待したのは貿易と金融を作り替えることだったが、失敗した。中国との問題もあった。IMFとの闘いなどで一步一步教訓を引き出さないといけない。経済協力では、BRICsや上海条約機構(イラン・中国・パキスタン)は大きなグループだ。一つの大きな概念を作っている。新しい憲章をつくって。アメリカ有利のシステムを変えなくてはならない。一つ一つ強化し、アジア、アフリカ諸国発展のために協力していかなければならない。

◎イギリス代表(英国AA連帯委員会)

持続可能な発展は何百万の人々の願いだが、貧困層が社会的不正の下に置かれている。さまざまな紛争が発展を阻害している。平和の意味とは「戦争がない」ではなく、人民が社会的安定を享受することだ。今は相互依存の世界なので、平和なくしては成り立たない。二つの世界大戦で世界が対立し、発展が阻害された。人々は誤りを繰り返さないことを考えている。発展には平和が必要であり前提だということを確認したい。

◎エジプト代表

(スピーチが早すぎて、ほとんどのメモが尻切れになっており、意味不明)。だがエジプトのシシ政権は持続可能な発展の目標をすえてとりくんでいる。しかしさまざまな問題に直面している、と世界中の問題を列挙した。

◎フロアから

<エジプト代表>

エジプトの発言で、持続可能な経済発展の計画が十分でないというが、エジプトとは覚悟はできている。地球的な課題なので、貧困克服や教育の目標は達成していない。温暖化と収支バランス、アジア、アフリカでは多くの問題がある。これをどうするか。環境問題は脅威だ。

<チュニジア代表>

一国では闘えない。時間が無いのに持続可能な発展といわれても、ペシミストではないが、現実（は厳しい）。だが世界平和と南北関係、持続可能な経済発展の問題を取り上げてくれて感謝する。

◎司会：平和と安定が大きな課題だ。次世代への責任がある。

◎フロアから<国名わからず>

アラーの名のもとに。次世代のための条件づくりと言ったが、若者のために取り組むのが良い統治だ。平和と連帯とともに、統治の問題をちゃんと監視することが必要だ。

◎司会：良い統治は大事な要素。次世代のためにも。

◎イギリス代表

その通りだと思う。資源が一部のグループのためにしか使われないのが最大の問題。教育への投資が重要だ。G7など世界的環境の問題はあるが、例えばアフガンのように、政府の統治の問題が大きい。良い統治という内部の環境をどうつくるか。

◎ロシア代表

国連のいろんな機関があるが、それを使って始めた人たちがいる。全体として良い統治にむけた徴候はできていないが、私たちの組織が積極的役割を果たしていきたい。

◎司会：アジア、アフリカ、中東にとって良いことは、若者が多いということだ。

11月16日（3日目）

<10時～ その他の代表のスピーチ>

司会は、ヌリ書記長

◎どなたか発言を。ネパールがまだだと思うが。

◎ネパール（若い女性の代表タパさんが発言）

AAPSOは1958年の創立以来の長い歴史で正義のために闘ってきた。そして世界中で植民地支配は終わった。しかし21世紀になっても他国への干渉、貧困の拡大、軍拡、環境破壊の問題がある。組織的な人権侵害がある。人類は今こそ人権のためにパレスチナを支援しよう。皆さんの組織が約束したように、中東の平和のために。指導者に願うのは、

協力を妨げる策動と闘うこと。ネパールは非同盟の原則を堅持し、平和を願う国だ。植民地支配と干渉に反対し、アジア、アフリカ、ラテンアメリカの人民と連帯する。私たちの決意は、AAPS Oと協力すること。AAPS Oとモロッコのホストに感謝したい。

◎司会：11時30分にここを出て、200m離れた博物館に行くことになっている。

◎イラク

イラクを代表してスピーチする。2020年の大会を、イラクで開催することになった。イラクの委員会は、とても喜んで引き受けることにした。歴史的な任務を引き受けたい。

◎司会：今、最終宣言の作業中なので待って下さい。

◎フロアから

最終宣言は印刷して配ってほしい。皆が読めるように。修正の議論ができる。

◎起草委員会<モロッコ>

起草委員会で議論している。たくさんの方に貢献してもらった。文章を書いているところなので、出来次第、印刷します。全ての問題を入れようと、民主的なプロセスで作っている。作業が遅れている。

◎フロアから：声が大きくて通訳の音声聞き取れず。

<12時～ 第11回大会最終宣言>

◎最終宣言の提案

※印刷された文書の配布なしに、口頭で宣言を読み上げた。

◎フロアから「イエメンについての部分をもう一度読み上げてほしい」と発言

◎日本の田中代表理事が、日本の提案についてまったく言及がないことについてなぜかと質問。「説明がなければ日本は採択に参加しない」と発言。

◎ベトナム、ロシアほか数か国の代表が発言

◎パレスチナ（起草委員）

イエメンに関して様々な意見が出されたので、再度修正について協議する。外部からの干渉の扱いなどについて。あれこれ非難するのではなく、「平和的解決」でまとめたい。

◎ヌリ書記長

さまざまな補足意見があった。それらを最大限取り入れて補強するようにする。

◎起草委員会のクリスチーン事務局員が田中代表理事のところに来て、日本の提案はとり

いれるといいにきた。

◎ハディディ議長の閉会あいさつ

貴重な議論と大会への参加に感謝する。この二日間、貴重な意見が寄せられた。ホスト役のモロッコに感謝する。とくに開会式への首相の出席と政府としての支援に。書記局の仕事にも感謝する。その活動は大事だ。イギリスからも参加があり、率直な議論をしてもらった。ロシアは大国であり、その役割は重要だ。この60年間の歴史は、私にとって知識の集積であり、組織を豊かにした。

の集積だ。これを活用して歴史を作り、同じ（ような）組織と協力していく力になる。中東のできごと、アラブの春でひどく傷ついた。しかしレバノン、チュニジアの委員会が悪い影響から復活した。一方、たくさんの国の組織が欠席した。それぞれの委員会の中には、活動できないところも。アフリカの委員会ももっと来てほしかった。いくつかの国の委員会は再建された。コンゴも2,3か月前に再建した。これからも復活をめざしていかなければならない。モーリタリアでアジア、アフリカ作家同盟を再建し、参加していることは重要。ジャーナリスト組合連盟がAAPSOと連帯している。これが成功すれば、もっと参加は増える。ラテンアメリカにもたくさんの組織があり、連絡を取っている。私の夢はAAがAALAになることで、そのための努力をしたい。みなさんも同じ望みを持っているから協力をお願いしたい。最後に、モロッコに来られて光栄だった。二日間の会議を通じて、満足をもって皆さんとお別れできる。

◎モロッコ委員会アタラシ委員長の閉会宣言

ご参加に感謝する。貴重な議論を通じて、私たちの役割と連帯の原則を確認できた。モロッコは義務を果たせて嬉しい。財政上の支援をモロッコ政府から得た。首相も出席した。パレスチナの副首相も。ネパールからはメッセージが託された。すべてのみなさんお協力に感謝したい。

解散後、田中は起草委員会のメンバーに再度、どうして日本の提案について最終文書で言及がなかったのか、理由の説明を求めた。エジプトの起草委員は、田中の発言後、スピーチ原稿をもらったが、その原稿には名前がなかったので、扱いに困ったといいわけをした。ヌリ書記長が傍らから、日本の立場はよくわかっているから、必ず反映させる、といった。

<16時～ パレスチナ連帯の夕べ>

同じ会場で、パレスチナ支援委員会が主催して「人民支援の会合」があった。たたかいを記録した最新のDVD普及をどうすすめるかなど若干の討論があったのち、イスラエル当局に3度も拘束されて闘い続けているパレスチナの女性が講演した。続いて彼女と同僚の3人の女性のたたかいについてのドキュメンタリーDVDが上映された。（討論の概要は別項の片岡メモ参照）

（以上）